



The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



No.17

1998年4月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィッパ新宿御苑 ☎03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎03-3601-2535 FAX03-3601-2988

私・自分「個」の時代の教育

広島工学院専門学校理事長・校長 古澤 敏昭
 全国自動車整備専門学校協会監事

毎年入学する学生を見ると、年ごとに学生の気質に変化が生じていることに気づくものである。近年においては、茶髪・ピアスが目立つ者が多くなり、個人指導に力を入れると強力に反発する者が出る。

管理者研修に参加したとき、講師の言葉では、専門学校は資格を取りたい者には必ず資格を取らせる、資格の取得を望まない者には礼儀作法、躰、規則を守らせる、人前でハッキリ話せる人にするなど、社会で一人前に活躍できるようにすることが必要であり、全員を資格試験に合格させるような指導をすると学生はいなくなると聞かされて、一瞬、目の前が暗くなる思いがした。

造語センスは豊かだが

自分の青春時代を顧みると、上司、目上の人には自分自身のことを「自分は……」と言った記憶がある。

「自分」という意味を確認すると、「自分」は、おのれ・自身のへり下った意味として使用された。われわれの同年輩は言葉使いに注意したものである。

現代の新語・造語は高校生の年代から生まれているように思われる。ある意味において、「好奇心」「発想」豊かであると言えよう。今では「私」という言葉もあまり聞かれないよう



になった。「わし」「おれ」といったように言葉使いそのものが荒れてきたと言ったら、古い人間と言われるのではなからうか。21世紀に生きる若人と20世紀を支えてきた人間との調和を考えてみると、時代の流れを感じさせられる。

しかし貴重な体験を持った先輩として、良いものはよい、悪いものは悪いと、白黒がはっきりするものについては、正しいことを教えていかなければ、教育の現場にいるわれわれの存在価値はなくなるのではないかと自問自答している。

今日の学生を、個性豊かな人間であると位置づけ、良い意味に解釈して、一人の人間として対応してみれば、本当にパーソナリティは素晴らしく、順応性のある性格の持ち主として感じる。

一人ひとりの存在価値

若人にとって、少子化、高齢化社会への突入で、社会保障を考えると

大変な時代になることは誰しもが感じるものである。その21世紀に生きる一人ひとりの存在価値は、個性的に生きることにより、それを身につけることが大切で、「個」が確立されておれば、自分で生きがいを人生の中で見つけ出すことができると信じている。生きがいを見つけ、若々しく、自分というものを人のために役立つ人間に成長するものと位置づけ、ボランティア活動を通してそれを実感している若人の姿を見るにつけ、頭の下がる思いで一杯である。

いつの時代においても、教育の本質は変わらないが、社会環境の変化にどのように対応するかが大きな問題である。少子化対策として個を中心とする能力開発には、生涯教育体系を中心とするカリキュラムの開発および自己啓発への援助が必要となる。その基礎として、マンパワー養成には精神の豊かさ、豊かな精神の滋養と、若者にとって魅力的な社会形成が必要であると言える。

CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 苦境に立たされる専門学校
- 6面 協会トピックス
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教授法・編集後記